



平成 21 年 9 月 2 日

各 位

株式会社 ストリーム  
代表取締役社長 劉 海涛  
(コード番号：3071 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役副社長 竹下謙治  
(TEL03-5256-7684)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 21 年 3 月 13 日及び平成 21 年 4 月 23 日に公表した平成 22 年 1 月期の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせ致します。

#### 記

##### 1.平成 22 年 1 月期 第 2 四半期累計期間連結業績予想の修正(平成 21 年 2 月 1 日～平成 21 年 7 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	16,006	24	18	6	140.35
今回修正予想(B)	14,418	41	32	24	561.40
増減額(B - A)	1,588	65	50	30	701.75
増減率(%)	9.9%	-	-	-	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	14,112	200	220	129	3,037.17

単位:百万円

##### 2.平成 22 年 1 月期 通期連結業績予想の修正(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	36,569	308	296	144	3,368.42
今回修正予想(B)	34,587	110	111	55	1,286.55
増減額(B - A)	1,982	198	185	89	2,081.87
増減率(%)	5.4%	64.2%	62.5%	61.8%	61.8%
(ご参考) 前期実績	29,136	213	241	143	3,423.54

単位:百万円

3.平成 22 年 1 月期 第 2 四半期累計期間個別業績予想の修正(平成 21 年 2 月 1 日～平成 21 年 7 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	12,784	45	39	23	538.01
今回修正予想(B)	11,204	24	21	11	257.31
増減額(B - A)	1,580	69	60	34	795.32
増減率(%)	12.3%	-	-	-	-
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	13,294	177	195	112	2,648.10

単位:百万円

4.平成 22 年 1 月期 通期個別業績予想の修正(平成 21 年 2 月 1 日～平成 22 年 1 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	28,593	295	283	146	3,415.20
今回修正予想(B)	25,982	104	99	58	1,356.73
増減額(B - A)	2,611	191	184	88	2,058.47
増減率(%)	9.1%	64.7%	65.0%	60.2%	60.2%
(ご参考) 前期実績	27,927	170	201	111	2,669.52

単位:百万円

2.修正の理由

(連結業績予想)

当第 2 四半期累計期間は 4 月～6 月期の実質国内総生産が 5 四半期ぶりのプラスに転じ、年率換算で 3.7%の成長率となりましたが、国内消費に関しては雇用情勢の悪化や雇用者報酬の落ち込みなどから非常に厳しい状況となりました。

家電・PC 等のインターネット通販専門の当社におきましては、インターネット通販専門で同業の(株)イーベストを 2 月に買収、4 月には(株)ソフトクリエイト(東証 2 部)のインターネット通販事業部門を譲り受け、新たに(株)特価 COMとして 5 月から営業を開始し、顧客層の拡大と収益の拡大を目指しました。

これら 2 社においては当社と仕入・物流の一本化を図り、取扱商材を拡充させるなど売上は堅調に推移しました。一方、国内消費が全般に低迷する中で、当社においては、マイクロソフト社の Windows7 の発売を前にした買い控えやモバイル PC の浸透による販売価格の大幅な下落などにより、主力取扱商品の一つである PC 及び OA 周辺機器の売上が伸び悩み、又、政府主導のエコポイント制度は導入前の買い控え、そして導入後もインターネットを通じた制度説明の困難さからこれらの対象商品販売拡大の好機を十分に活かすできませんでした。これにより第 2 四半期単体累計の売上高が対前年同期比 84.3%、対予算比 87.7%と大きく落ち込みました。

更に、グループ 3 社の業務運営のノウハウ共有が十分でなかった点もあり一部販売機会のロスが生じました。

費用面につきましては、売上の低調に伴い関連する物流・広告等の費用が若干抑制されましたが、商品販売単価の全般的な下落による粗利の低下を補う程はなく、業績修正を行うに至りました。

第 3 四半期以降につきましても、経済環境全般は最悪期を脱したものの国内外とも楽観視できる状況にはなく、特に国内消費は引続き厳しい情勢となるものと思われます。

このような中、売れ筋商品を中心に価格訴求による販売を強化すると共に、販売力を活かした商品仕入の強化を行い、又、グ

ループ3社が各種外部サイトへの積極的な出店を行い集客の拡大を行う考えであります。

更に、本年8月に稼働させた自社開発の物流システムを含む物流全般の効率化を推進し物流費の抑制を図る予定であり、利益の確保に努めるように致しますが、当第2四半期累計期間の業績動向及び第3四半期以降の収益環境を勘案し、通期業績予想も修正致します。

(個別業績予想)

個別業績予想の修正理由は連結業績予想と同様であります。

以上